

「働く」ことから生き方を考える

職業と進路の双方向のつながりをめざして



札幌市立山鼻中学校

住所：札幌市中央区南23条西13丁目1-1

児童（生徒数）：300人

本校では、総合的な学習の時間（本校では「智究の時間」と呼ぶ）を中心に、「キャリア教育」「コミュニケーションスキル」「生命尊重」の三つの内容を、全学年を貫く学習活動として位置づけている。三つの活動内容を相互に関連づけていくことで、総合的な学習の時間のねらいの一つである「自己の生き方を考える」に迫ることを企図している。

職業体験など地域の理解と協力、母体小学校での学習経験などを生かしながら、生徒一人一人がさまざまな活動を通して、自らの個性に気づき、磨いていくことができるような学びの場の構築を目指している。

推進のポイント

〔地域を知る〕

本校は、3つの小学校を母体としている。5・6年生の旅行の行事の行き先と活動内容、総合的な学習の時間の内容などを教務主任間で交流し、中学校での活動をできるだけ重複しないようにしている。また、中学校の夏休みを利用して、小学校の授業を見学し、小中教員の交流会をもつなど、小中一貫の視点で子どもを育てるための連携事業を重ねている。

〔計画する〕

本校では、総合的な学習の時間における全体計画に、全体目標、特に身に付けさせたい力、共通する学習活動を設定し、その下に各学年のねらいと内容を構成している。全体計画に基づき、1年から3年の学習を貫く190時間という長期的な見通しをもち、生徒の実態に応じて内容を構成していくものとしている。

〔校内体制を整える〕

全体計画に基づいて、各学年の担当が学年計画を作成している。学年間のつながりを重視する点で、前年度の成果と課題、地域の事業所との連絡調整事項を綿密に引き継ぎ、文書データなども有効に活用できるようにして、効率化を図っている。

〔評価する〕

12月に土曜参観を設定し、その中で総合の学習成果の発表の場を設けている。保護者の前での成果発表は、保護者にとって教科とは違う子どもの成長に触れる機会となっており、学校評価アンケートなどでも肯定的な回答や意見が多い。発表の仕方などは生徒の相互評価を取り入れ、国語科での話し方・伝え方の指導につなげるなど、教科との関連を図っている。

具体的な取組

＜1年生＞

1年生は「職場訪問」をテーマとしている。職業調べとは違い、なぜその仕事を選んだのか、働きがいとは何か、働くことを通して得たものは何か、中学生の頃にもっていた将来への思いなど、職業の内容よりも、社会を支える人そのものに着目し、生徒が疑問や思いをもとに聞き取り、自分自身に照らして考えていくようにしている。



＜2年生＞

2年生は「職業体験」をテーマとしている。1年生の活動をふまえ、生徒が自分の特性に応じて体験する職業の大きかな分野を選択し、それをもとに教師側で職場の振り分けをしている。原則として2日間同じ事業所で体験するように依頼し、1日目の体験で感得したことや課題を、2日目に主体的に生かした活動となるようにしている。



＜3年生＞

3年生は「上級学校訪問」をテーマとしている。3年生では、進学に向けた高校訪問を積極的に推奨し、高校の先にある進路・進学先としてある大学・専門学校への見学と体験を活動内容としている。1日目は大学見学、2日目は専門学校での授業体験とし、高校から大学や専門学校、就職という一貫性を見通すことをねらいとしている。



成果発表では、高校選択の時期と重なることもあり、現在の進路選択とほぼ10年後の自分の将来を見通して自らの生き方を考えての発表が行われている。